

## Dana Gaddy 博士(米国内分泌学会、女性内分泌学者の会会長)のスピーチ

私の研究キャリアは、生殖に関するテーマからスタートしました。遺伝子発現をはじめ様々な手法に挑戦してきました。ソーク研究所では下垂体の研究に着手し、また、骨におけるインヒビンとアクチビンの研究にもたどりつきました。私の夫は、私も一緒に働けるよう 2 人セットで就職できる教員のポジションを探してくれました。そして、生殖に関するホルモンと、骨形成マーカーに関するテーマに取り組むことになりました。特に、閉経後の女性では、たとえエストロゲンが正常レベル内であっても骨量の低下が起こっていることを示すことができたのは幸運でした。閉経状態ではインヒビンが低下して骨のターンオーバーを促進するために骨量が低下するのであろうと仮説を立て、研究を進めてきました。トランスジェニックマウスを作成したり、あのメイヨークリニックと共同研究をしたりと、いろいろ頑張ってきたつもりです。ついに、20~80 歳の女性における骨のターンオーバーマーカーとテストステロン、エストロゲン、IGF1 との関係、さらにはインヒビンやアクチビンのレベルとの関係を明らかにすることができました。ついに、“閉経後はエストロゲンレベルが（補充して、仮に）正常内であっても、閉経後の骨量低下がおこる。この時、インヒビンレベルは低下しているので、このインヒビンレベルの低下を防げば、加齢による骨量低下を防げるのではないか”というユニークな仮説をうち立てるに至りました。運良く興味を持ってくれた会社がアクチビン阻害薬を作成し、現在、臨床治験にはいっています。本薬剤は、骨粗鬆症だけではなく、癌の骨転移症例への応用も期待されており、自分の研究がここまで発展することができたことに、感慨を持っています。自分の経験をふり返って皆さんに申し上げたいことは、共同研究をどんどんしてほしい、そしてユニークな研究への興味を大切にして、新しく飛躍する分野に挑戦してほしいということです。研究において、若手には非常識な程の integration を成功させてほしいし、臨床家には身体を総合的に俯瞰する integration を忘れないでほしいと思います。臨床医は総合的な co-operate の大切さを、患者さんを通していつも見ているはずだからです。注意深い観察は一本筋の通った研究につながり、科学的データに基づいた仮説が導かれるはずです。様々なことに興味を持ち、もっと知ろうとすることこそが新発見につながります。共同研究は本当に大事です。どうぞ躊躇することなく、自分の可能性に挑戦してください。皆さんの益々の発展を祈ります。